

はじめよう経済学⁺*Plus*

第6講 AD-AS分析(1)

講師：加藤 真也

今回(第6講)は…

- 古典派とケインズ派
- 労働市場
- 失業の分類
- AS曲線

古典派とケインズ派

1776年 アダム・スミス『国富論』

↕ 古典派(アダム・スミス, リカードなど)

1870年代 限界革命
(ジエボンス, メンガー, ワルラス)

1929年 世界恐慌

1936年 ケインズ『一般理論』

↕ 新古典派

正式名『雇用、利子および貨幣の一般理論』

1960年代 マネタリスト(フリードマン)

1970年代 合理的期待形成学派

ケインズ派

↕ 新しい古典派

分析対象

財市場

45度線分析

貨幣市場

IS-LM分析

労働市場

AD-AS分析

労働市場

AS曲線が導出できる

① 労働需要 (企業側)

: 労働者を何人雇いたいのか

⇒ 労働を需要する側 = 企業

② 労働供給 (家計側)

: 労働者として何人働きたいのか

⇒ 労働を供給する側 = 家計

名目賃金(率) w ← 貨幣賃金(率)
wage

: 労働者の賃金 (単位: 円)

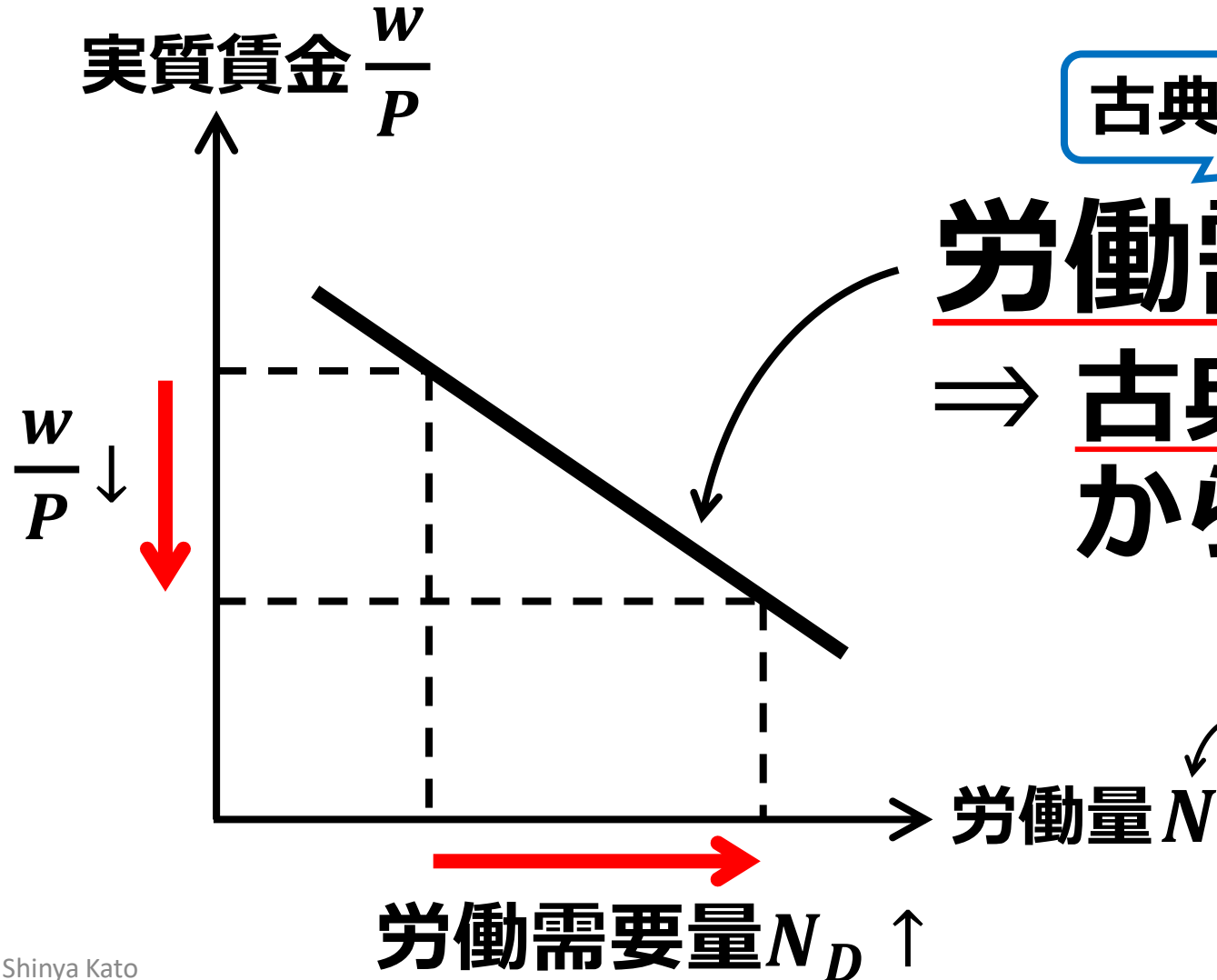
実質賃金(率) $\frac{w}{P}$ ← 物価

: 労働者の賃金 (単位: 個)

例 $w = 1000$ 円

$$\frac{w}{P} = \frac{1000\text{円}}{200\text{円}} = 5\text{個}$$

• 労働需要

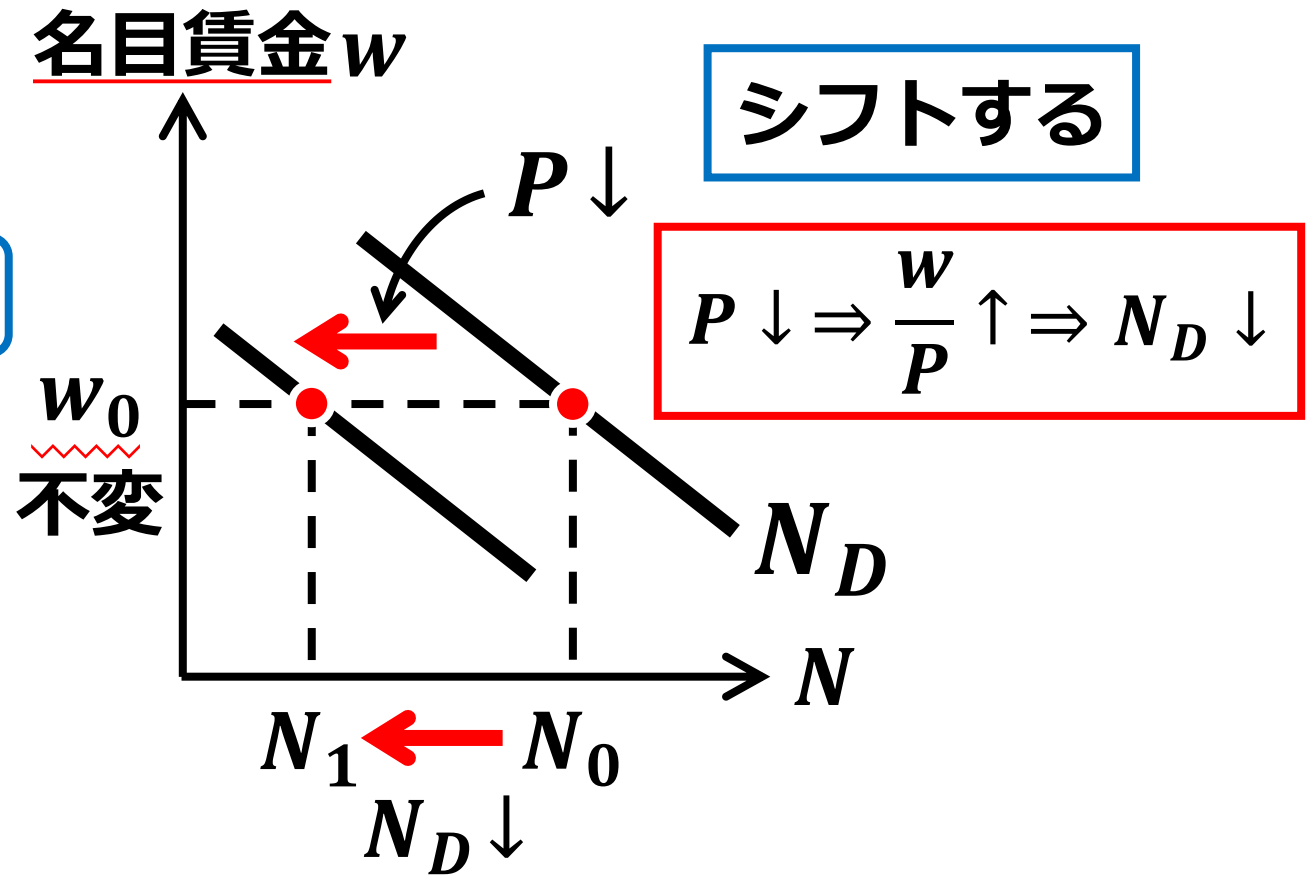
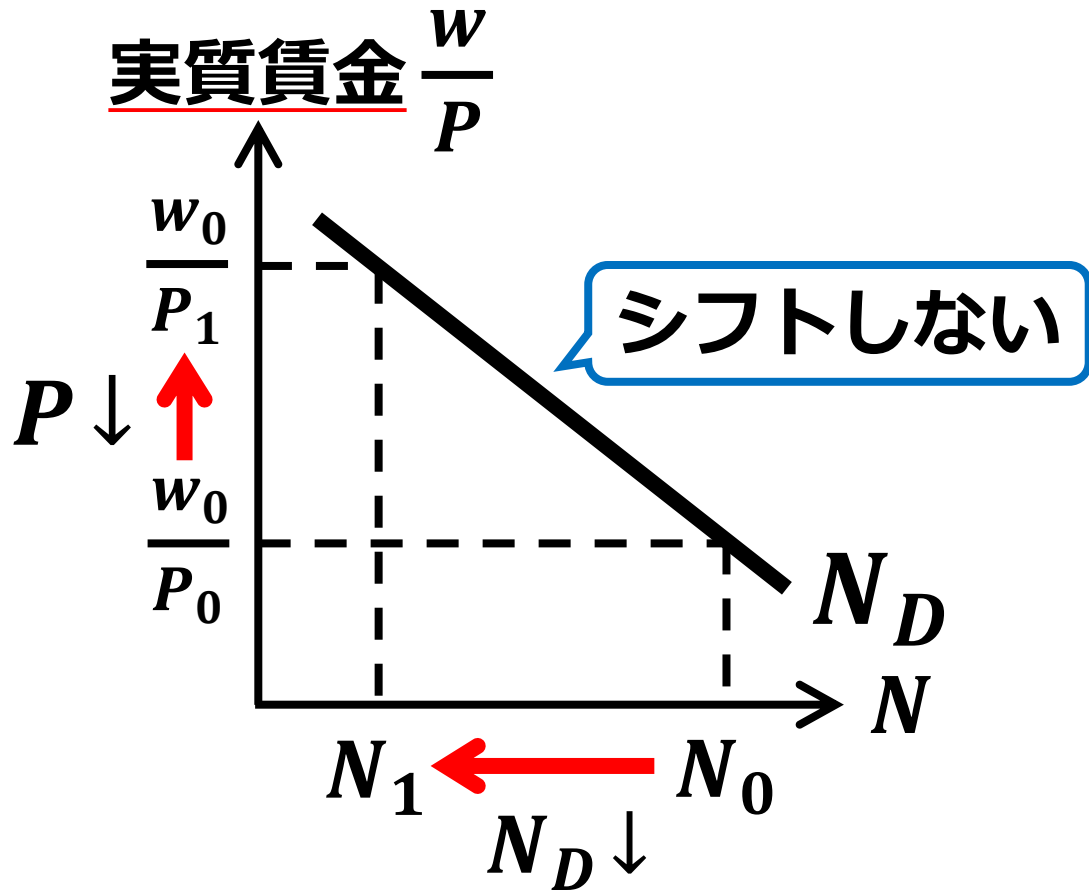


古典派もケインズ派も同じ

労働需要曲線 N_D
⇒ 古典派の第一公準
から導かれる

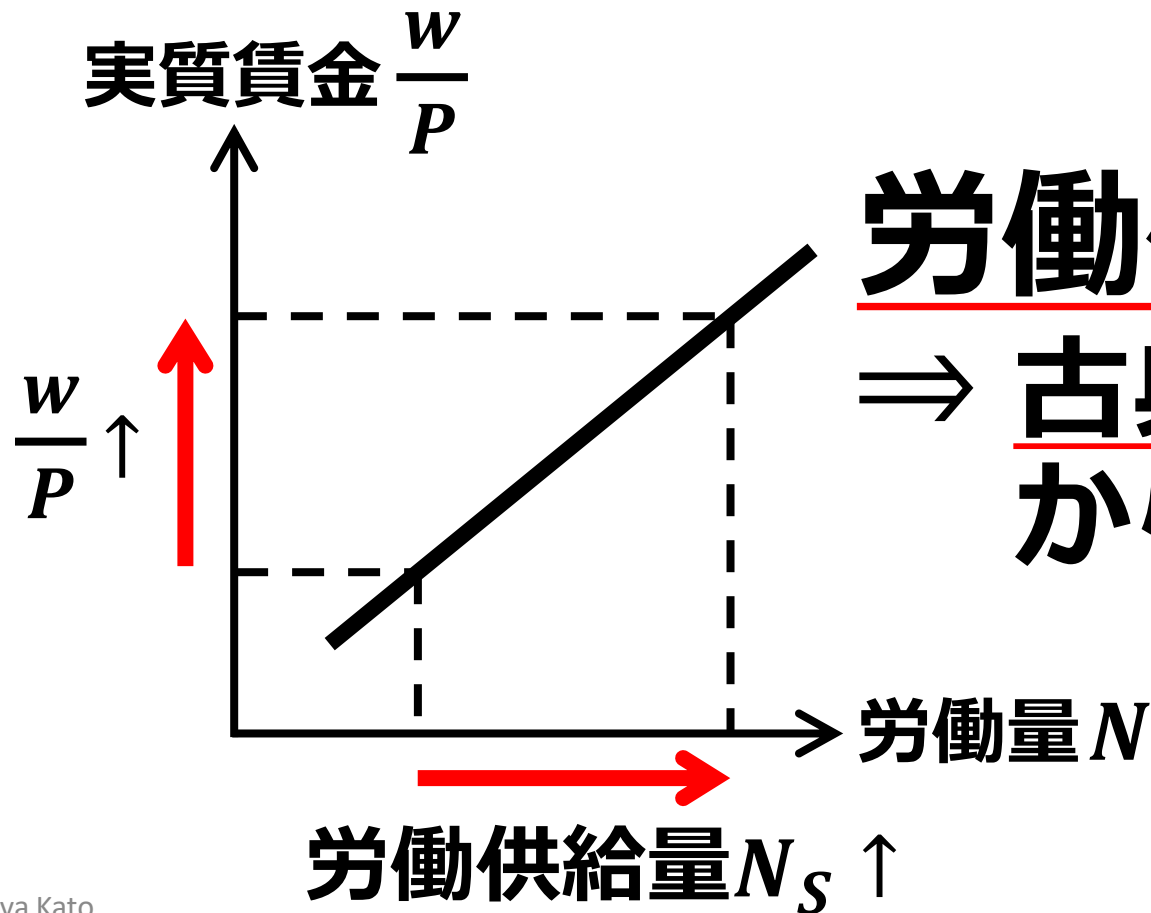
L と書くと貨幣需要と混合してしまう

例 デフレ($P \downarrow$)



• 労働供給

① 古典派



労働供給曲線 N_S
 \Rightarrow 古典派の第二公準
から導かれる

② ケインズ

仮定

1. N_S は w に依存

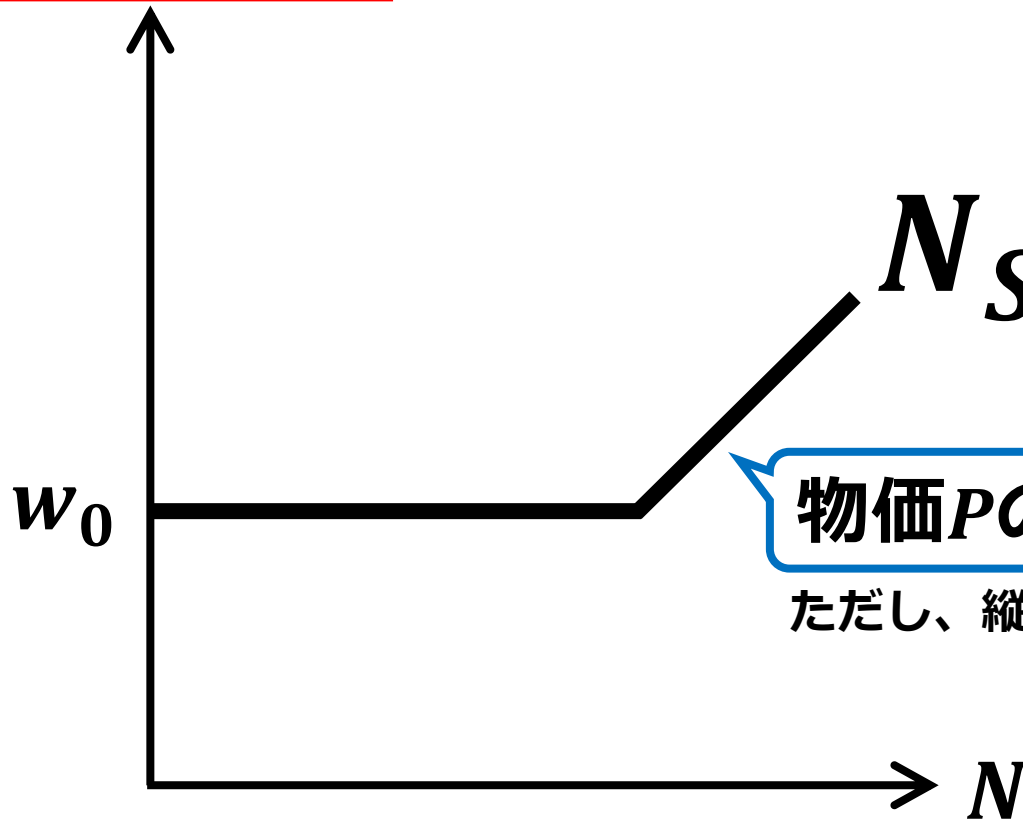
⇒ 労働者は物価 P (実質賃金 $\frac{w}{P}$)
が分からない：貨幣錯覚

2. 名目賃金 w の下方硬直性

： w は下がりにくい

これらの仮定より、

名目賃金 w



古典派の第二公準を否定

N_S (ケインズ派)

物価 P の変化でシフトせず

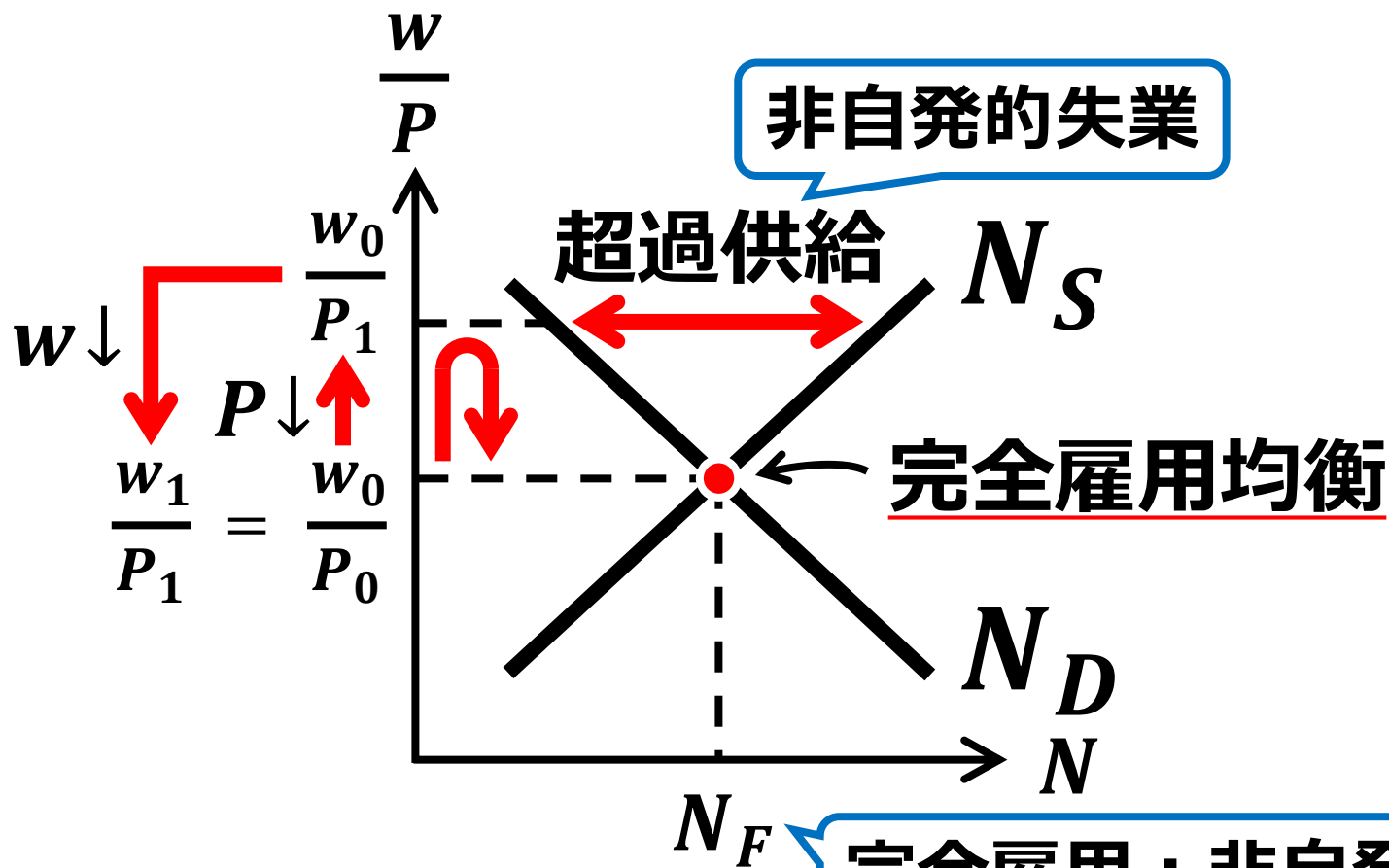
ただし、縦軸が w/P であればシフトする(後述)

失業の分類 by ケインズ

- ① 自発的失業 完全雇用(古典派)でも存在
: 現行賃金では働きたくないから失業
- ② 摩擦的失業 完全雇用(古典派)でも存在
: 転職などによる一時的な失業
- ③ 非自発的失業 古典派では存在せず
: 現行賃金で働きたいのに失業

労働市場均衡

① 古典派



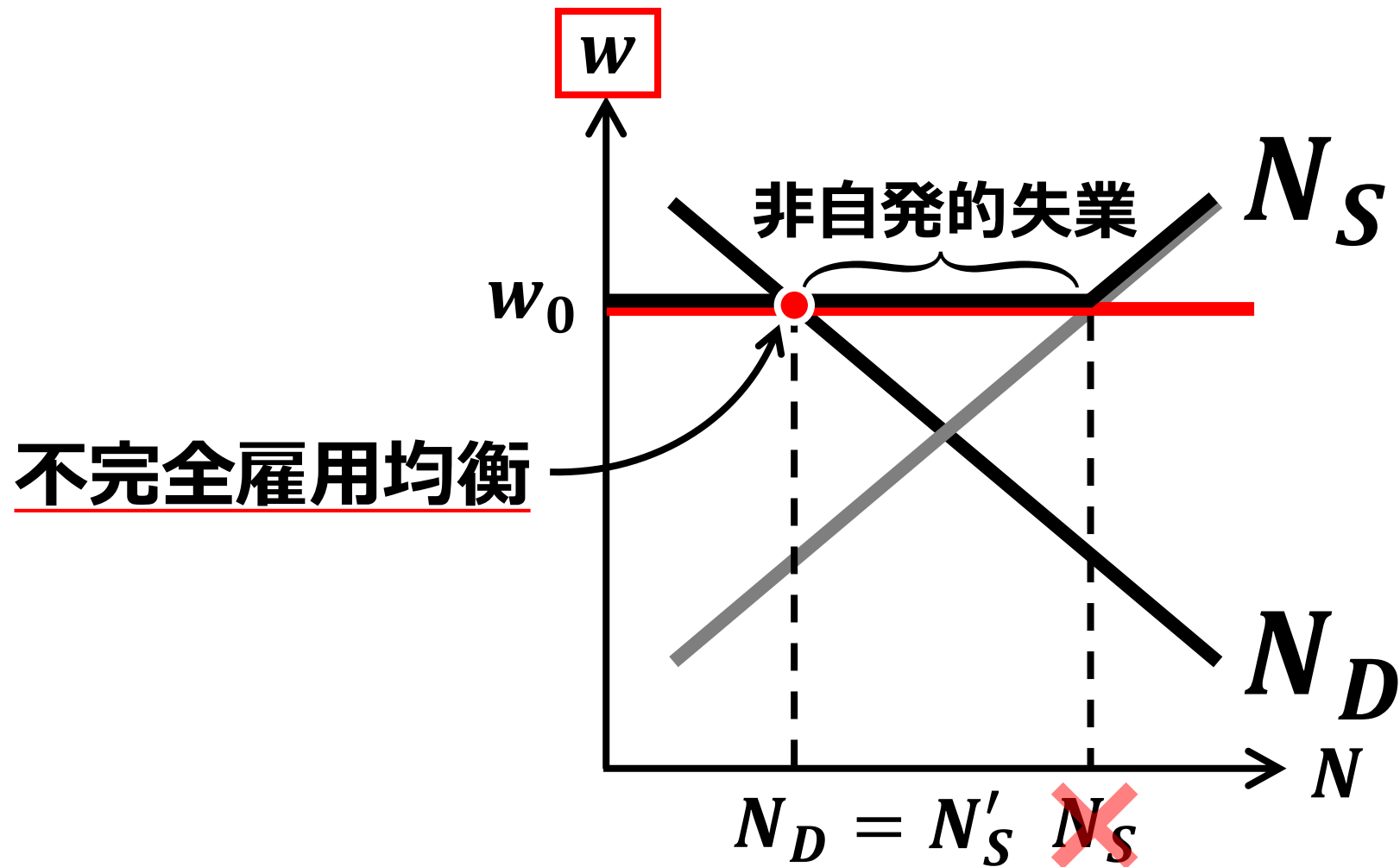
まとめ

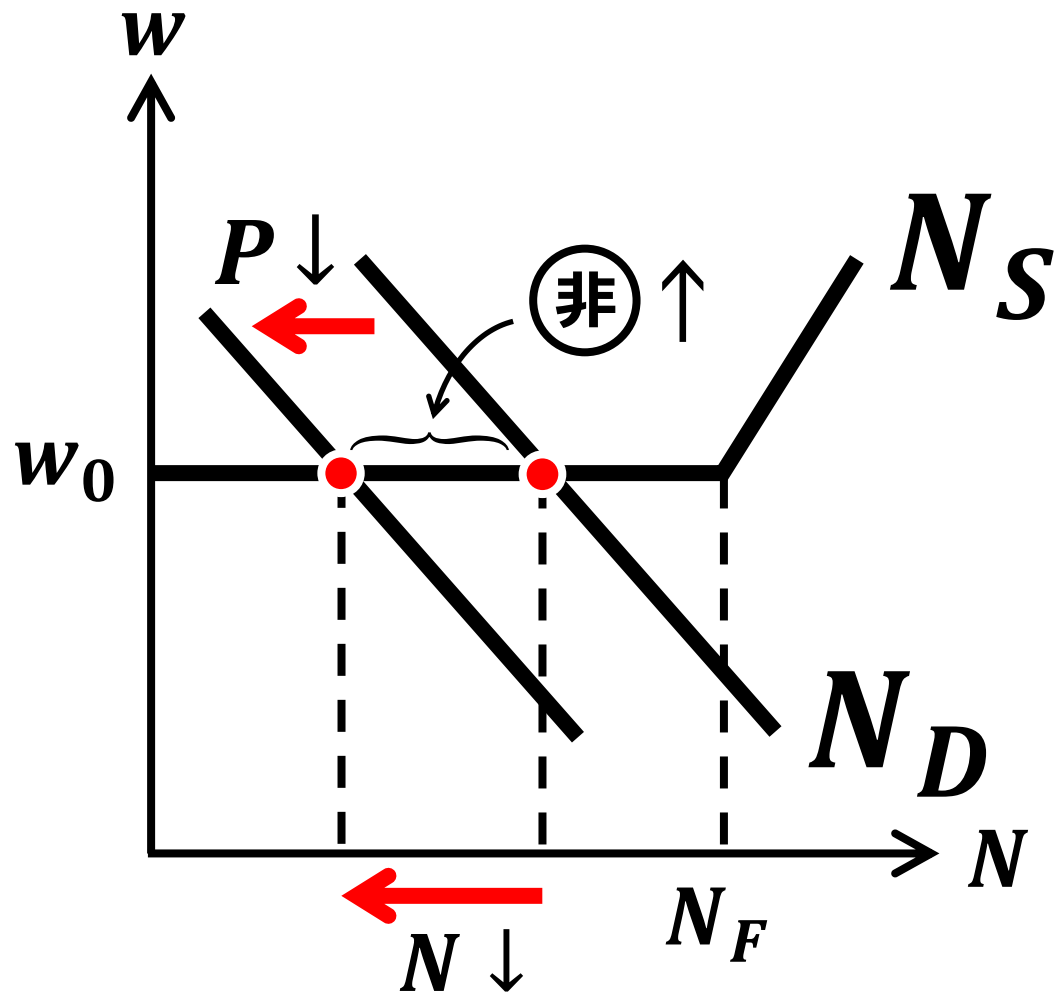
$$P \downarrow (\text{デフレ}) \Rightarrow \frac{w}{P} \uparrow$$
$$\Rightarrow N_D < N_S \Rightarrow w \downarrow$$
$$\Rightarrow \frac{w}{P} \downarrow \Rightarrow \underline{N_D = N_S}$$

wの伸縮性により
完全雇用に戻る

完全雇用 : 非自発的失業 = 0 の状態

② ケインズ





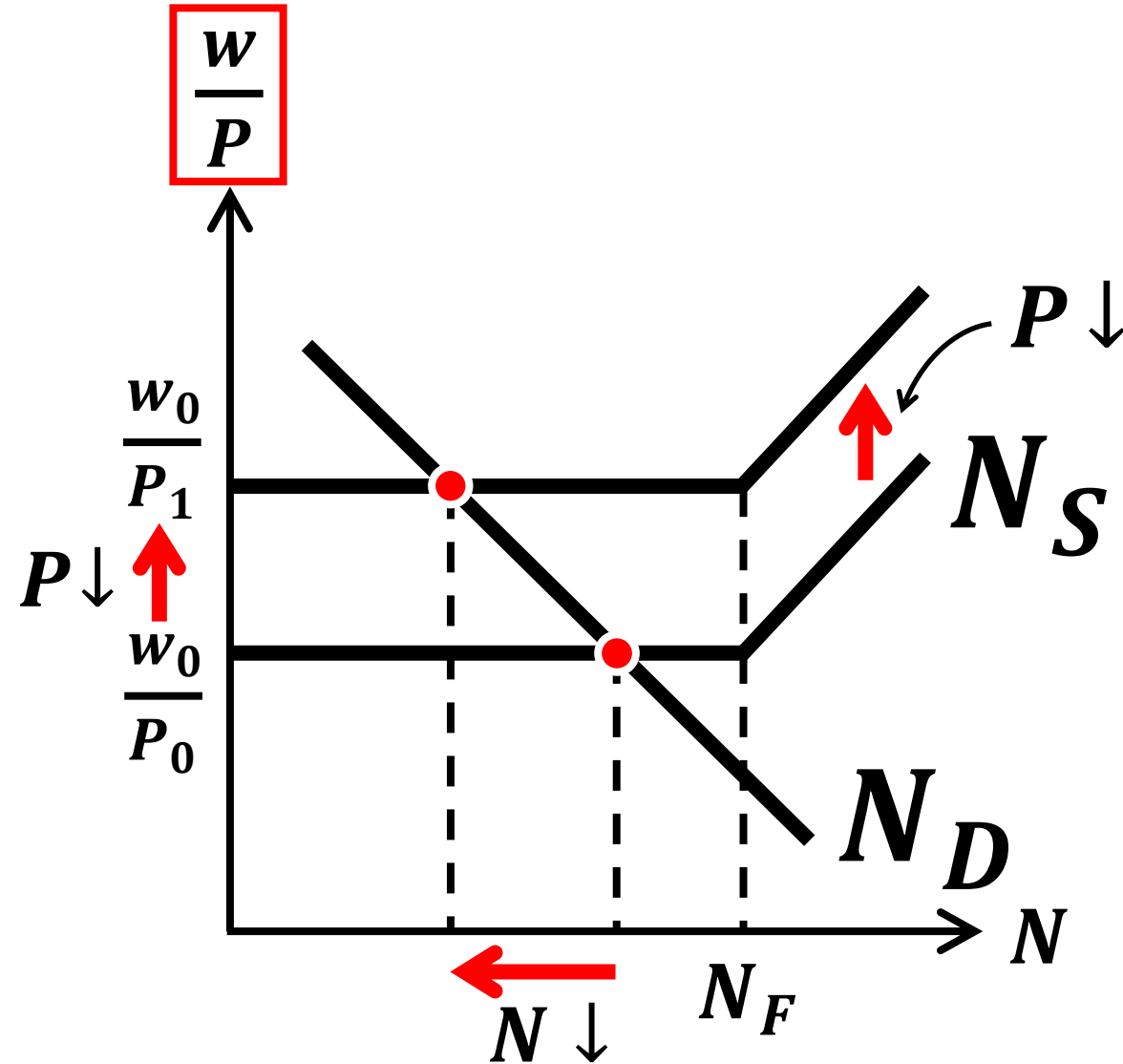
まとめ

$P \downarrow$ (デフレ)

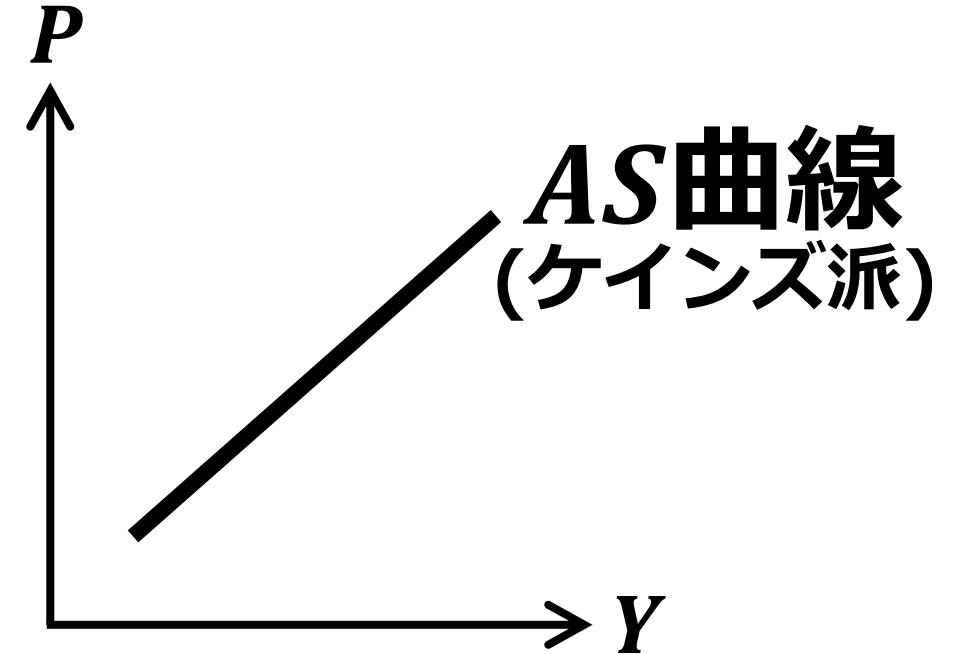
$\Rightarrow N_D$ 左シフト

\Rightarrow 非自発的失業が拡大

別の書き方

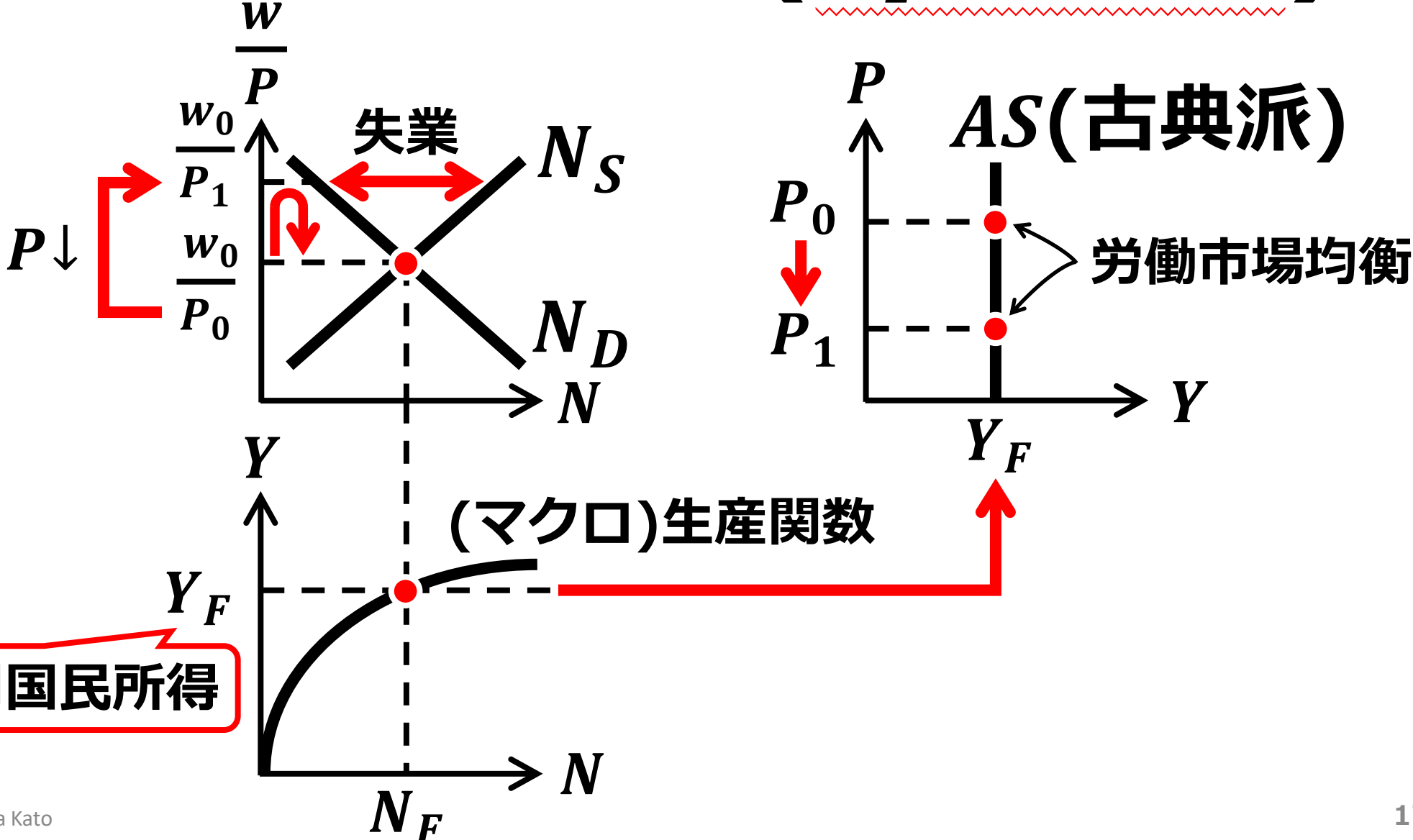


- **AS曲線の導出**
(総供給曲線)

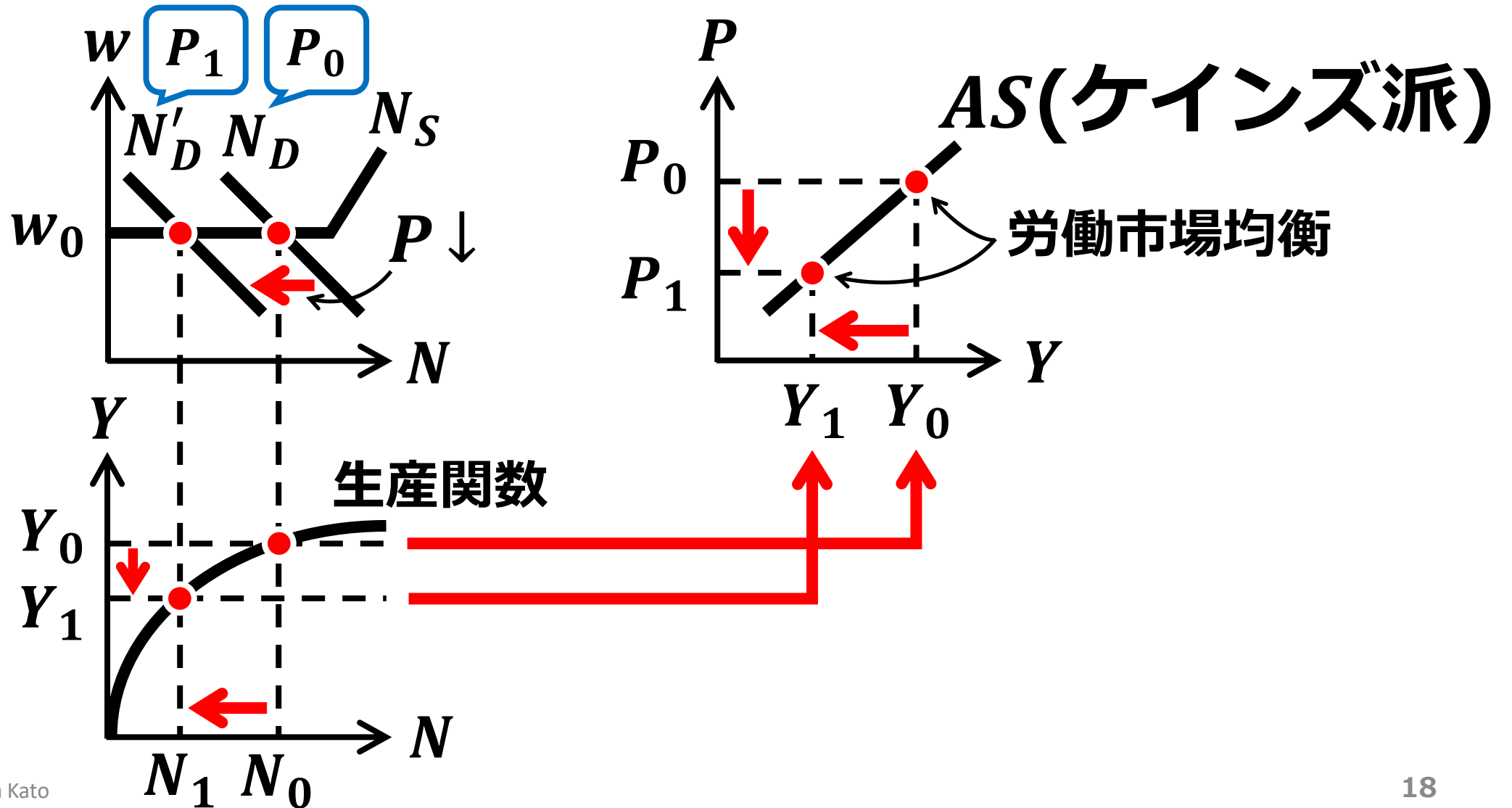


Aggregate : 集計する
Supply : 供給

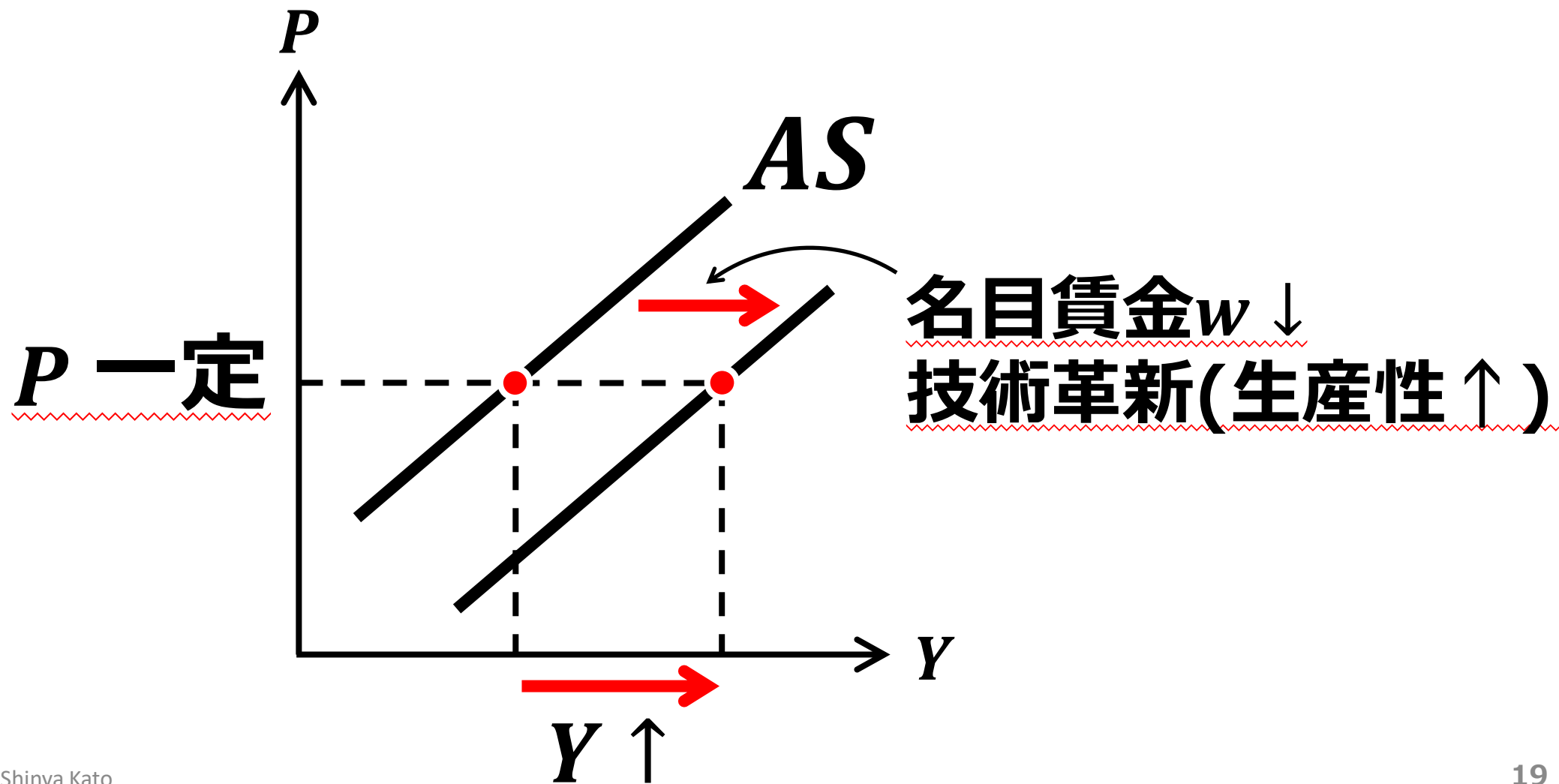
古典派のAS曲線(Y_F で垂直)



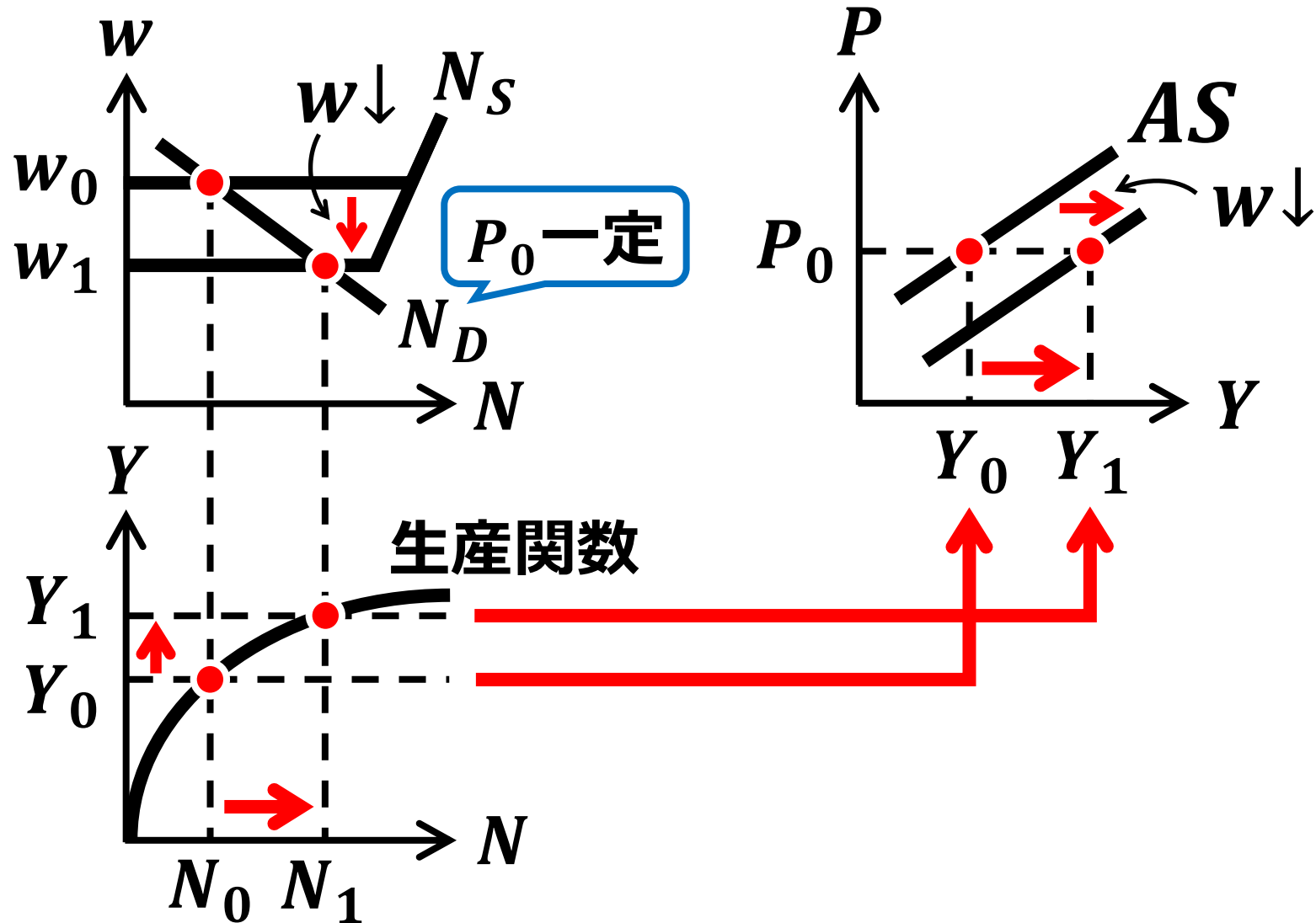
ケインズ派のAS曲線(右上がり)



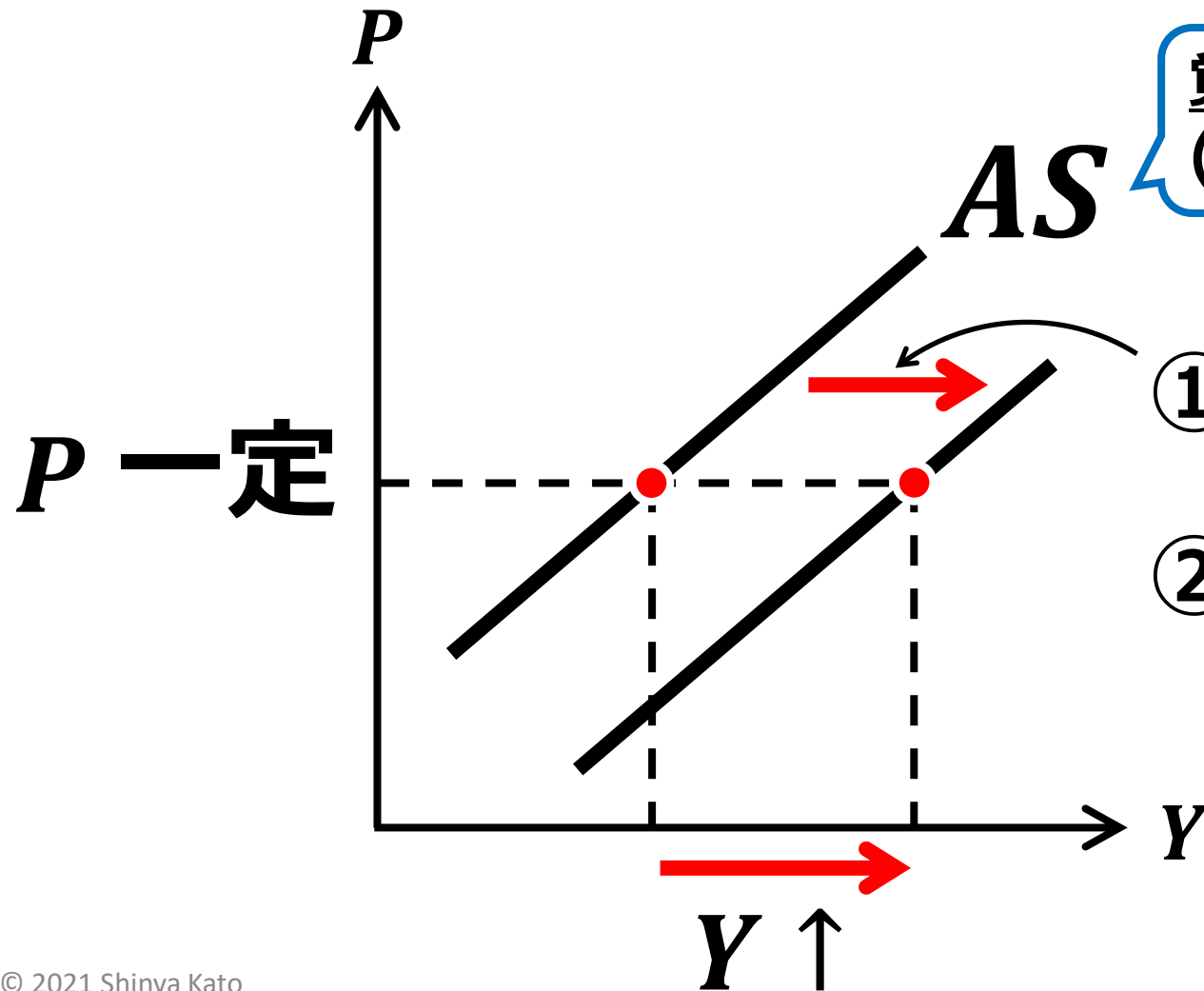
AS曲線の右シフト



AS曲線の右シフト(要因： $w \downarrow$)



まとめ AS曲線(ケインズ派)



覚え方

(総)供給曲線だから右上がり

- ① 生産コスト ↓
(名目賃金 w ↓, 原材料費 ↓)
- ② 技術革新(生産性 ↑)

次回(第7講)は…

- **AD曲線を導出します**
- **AD-AS分析を用いて、
財政政策と金融政策の効果を
深く理解します**